

川島織物セルコン ミラノデザインウィーク 2024 へ出展
技と創造性で魅せる 100 種類の黒い織物を 黒一色の無限空間で



百の黒 A Hundred Black

株式会社川島織物セルコン（本社：京都市左京区 社長：光岡 朗）は、2024 年 4 月 16 日（火）～21 日（日）にイタリア・ミラノで開催される世界最大規模のデザインイベント ミラノデザインウィークに出展します。

「百の黒 - A Hundred Black -」をテーマに、100 年以上にわたって挑戦し続けてきた、伝統技術と現代技術の継承・発展と織物の可能性の拡張への挑戦を、“黒一色の織物 100 種” で可視化します。

川島織物セルコンは 1843 年の創業以来、インテリアファブリックへの参入・幅広織機の導入・新しい素材の採用など、織物の新たな可能性を探求し続けてきました。2019 年からはミラノデザインウィークで新作の織物を発表し、世界中から訪れる多くの方々からの反応を間近で感じ、その評価を次の挑戦につなげています。4 回目の出展となる本年は、昨年に引き続き、照明デザイナーの岡安泉氏をアートディレクターに迎え、インスタレーション「百の黒 - A Hundred Black -」を実施、織物の可能性を表現します。

今回、新たに製作したのは、100 種類の黒い織物。さまざまな色の材料を多用し、鮮やかで豪華な柄を繊細に表現する

西陣織ですが、その重要な要素の一つである「色」をあえて“黒一色”に限定し、織の技法や織組織を創造的に活用することに重点を置いた表現としました。創業時から継承してきた伝統技術と、進化への探究を通して得た新たな技術を駆使することにより、多種多様な表情を持つ 100 種類の黒い織物が完成しました。

京都・西陣の呉服業にルーツを持ち、西陣の伝統技術と現在の技術を融合させながらファブリックを探求し続けてきた川島織物セルコンが作り出した、100 種類の黒。そして、黒一色の織物で構成する空間を操るのは照明のプロフェッショナル 岡安泉氏。川島織物セルコン×岡安泉のコラボレーションにご期待ください。

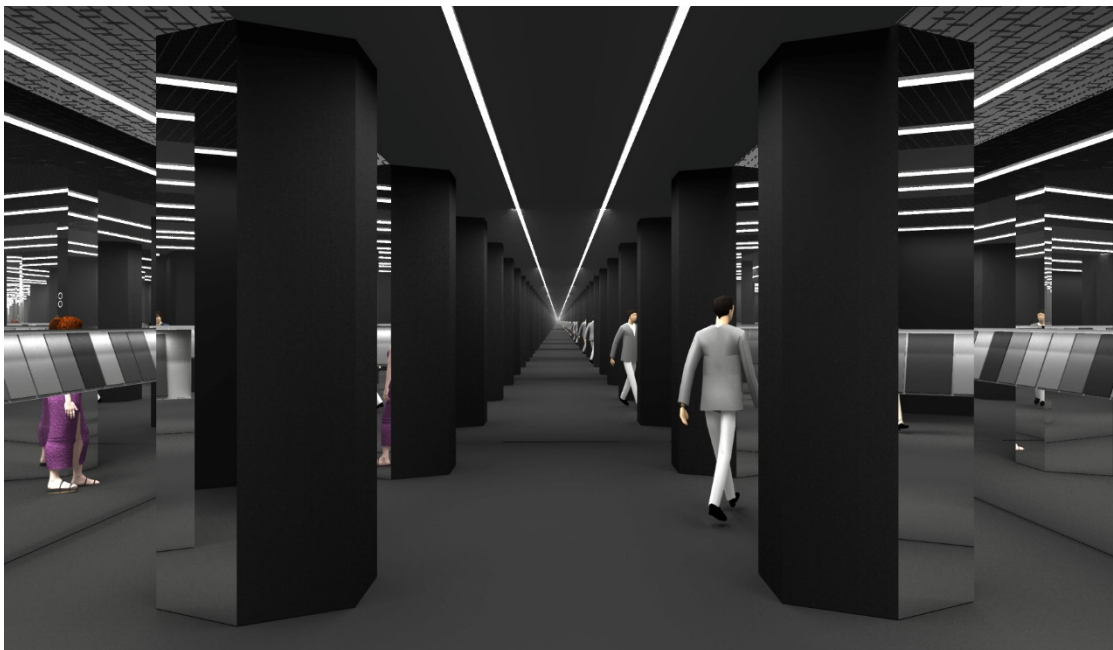
展示概要

タイトル：百の黒 - A Hundred Black -
開催期間：2024 年 4 月 16 日（火）～21 日（日）
会場：スーパースタジオ・ピュー（Superstudio Più）
特設サイト：<https://www.kawashimaselkon.co.jp/event/milan2024/>

インスタレーション 百の黒 - A Hundred Black - / 岡安 泉

装飾のない黒の空間で、100種類の黒い織物を展示します。

黒一色の無限空間だからこそ感じられる、川島織物セルコンのつくるさまざまな黒の違いをお楽しみください。



新作織物 100種類の黒の織物

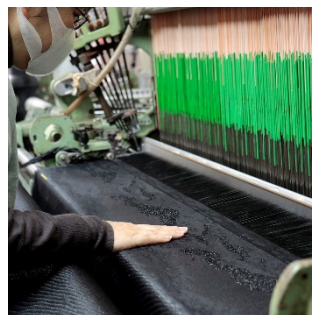
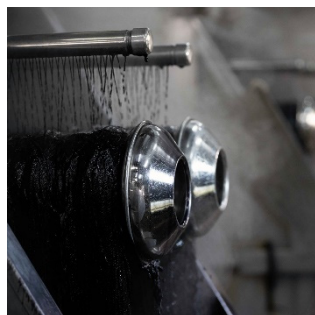
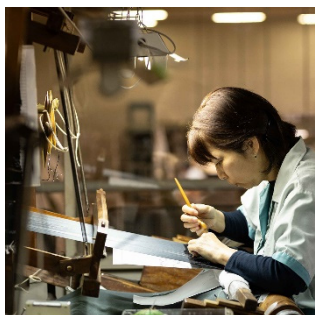
技法×織組織

織物は、材料 × 技法（織り方） × 織組織（パターン）の3つの要素から構成され、その組み合わせやバランスで、いかに多種多様な織物を作り出すかが、織物製作の神髄とも言えます。中でも、さまざまな色や太さの材料を多く用いて、鮮やかで豪華な柄を織細に表現するのが西陣織の特徴で、金や銀を含む色糸はもちろん、光る効果を狙って貝殻などを使用する事もあります。ミラノデザインウィーク 2024 では、織物の美しさの重要な要素の一つである「色」を、あえて「黒一色」に限定し、技法と織組織を重点的に活用し、100種類の黒の織物を創り出しました。

日本の黒

黒墨・漆黒・濡烏（ぬれがらす）・鈍（にび）・呂色（ろいろ）のように日本には黒色を表現する言葉が多くあります。また、和装の礼装に用いられる黒は、“深ければ深いほど美しい”とされています。このように日本文化にとって黒は特別で、日本人は美しい黒を追い求めてきました。

「百の黒 - A Hundred Black -」では、日本人の黒への思い、そして黒の持つ無限の可能性と、当社の織物の可能性を信じる心を重ね、延べ千回近くの試作を繰り返し、100種類の黒の織物を完成させました。



アートディレクター 岡安 泉

メッセージ 黒一色のみを使って技術や技法の組み合わせが異なる 100 種類の黒の織物を作るという難しいテーマに、川島織物セルコンデザイナーを含む製作陣は 100 をはるかに超える大判の織物を作った。

今回の展示でご覧いただきたいのは、それら丁寧に作られた 100 種類の黒い織物たちと同時に 180 年の歴史の中で培われた企業風土によってもたらされる同社が持つ技術・技法の多様性、対応力と精度の高さである。黒の強い印象と共に川島織物セルコンの持つ技術・技法の多様性を記憶に残し持ち帰って欲しい。



照明デザイナー／1972 年 神奈川県生まれ 岡安泉照明設計事務所代表

建築空間・商業空間の照明計画、照明器具のデザイン、インスレーションなど光にまつわるすべてのデザインを国内外問わず行っている。これまで青木淳「白い教会」、伊東豊雄「generative order-伊東豊雄展」、隈研吾「浅草文化観光センター」、山本理顕「ナミックステクノコア」などの照明計画を手掛けるほかミラノデザインウィークなどの展示会において多くのインスレーションを手掛けている。

イベント詳細

タイトル : 百の黒 - A Hundred Black -
開催期間 : 2024 年 4 月 16 日 (火) ~ 21 日 (日) 11 : 00 - 21 : 00 (21 日は 18:00 まで)
プレスプレビュー 4 月 15 日 (月) 15:00-20:00
会場 : スーパースタジオ・ピュー (Superstudio Più)
<https://www.superstudioevents.com/>
住所 : Via Tortona, 2720144 Milano [MAP](#)
展示面積 : 約 140 m²
アートディレクション : 岡安 泉 (岡安泉照明設計事務所)

HP 本展紹介ページ : <https://www.kawashimaselkon.co.jp/info/press-release/20240312-01/>

特設サイト : <https://www.kawashimaselkon.co.jp/event/milan2024/>

川島織物セルコン

1843 年に京都で創業し、今年 181 年目を迎えた織物メーカー。古くは明治宮殿、近年では京都迎賓館や数々のラグジュアリーホテルに織物を納入するなど、その唯一無二のクオリティが高く評価されている。熟練の職人による伝統的な手織り技術に加え、現代ならではのテクノロジーを駆使した機械織りも積極的に取り入れ、文化の継承と未来へつながる技術革新の探求に力を注いでいる。2019 年よりその意志を体現するプロジェクト“織物屋の試み”を通して、「美の表現と織物の可能性に対するあくなき探求を起点とする無理難題に挑戦する」ことで、織物の進化/発展を目指している。京都の本社には、企画・デザインから染め・織りまで一貫生産を手掛ける織物の製造工場、歴史的価値の高い作品を所蔵する「川島織物文化館」、次世代に織物技術を継承する「川島テキスタイルスクール」を併設。織物文化の継承と発展、そして発信に努めている。

Website <https://www.kawashimaselkon.co.jp>
Instagram @kawashimaselkon_textiles
Facebook @kawashima1843
YouTube <https://www.youtube.com/c/kawashima1843>